

英国の公共空間デザインから学ぶ市民参画



一般財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所
第45回オンラインセミナー 2025年9月25日

グローバル・リサーチ【海外都市計画・地方創生・SDGs】

代表：鍋島紀美代(なべしまきみよ)

英国王立都市計画協会(RTPI)都市計画家
マンチェスター大学都市計画科修士課程修了
イギリスの地方自治体で都市計画業務に従事
現在はコンサルタント・研究・執筆・講演など



www.globalpea.com



info@globalpea.com



前回のJLGCセミナー(2023年9月28日第29回) イギリスの地域活性化事例から学ぶまちづくり



持続可能な社会に向けての
イギリスのまちづくり

地方都市の地域活性化から
日本でも参考になる事例

前回セミナーの要点



- 住民参加のまちづくりから
真の民主主義へ
- 長期的な視点で計画
- 地域に専門家を
- 住み続けられるまちづくり
(サステナビリティ)

公共空間とは？



英国公共空間の基本理念



- 公共空間の役割
- 人中心のデザイン
- 多様性・包摂性
- 自然・健康
- 気候変動への対応

歴史的背景

1970～90年代

- ❑ 産業縮小で景気悪化
- ❑ 郊外化と車社会によるタウンセンター衰退
- ❑ 新自由主義政策による地方自治や公共サービスの弱体化

1997年政権交代

- ❑ 2000年『Our towns and cities』公共空間の質向上やコミュニティ再生
- ❑ 2002年 PPG17 オープンスペース・スポーツ・レクリエーション計画: 公共空間整備と住民参加強化

現在

- ❑ 公共空間のデザインにおいて、制度的に市民参画が組み込まれる
- ❑ 公共空間は再び『安全で開かれた、誰もが使える場』に

Statement of Community Involvement (SCI:地域住民参画指針書) 「市民参画のルールブック」

市民参加
Participation

説明会やイベントに参加
して限定的に関わる

市民参画
Involvement

計画や意思決定のプロ
セスに関わり、意見を
反映させる

イギリスの都市計画制度における市民参画の制度

— 様々な場で市民参加の機会がある —

- Local Plan(マスタープラン)における市民参画
- 開発許可制度における市民参画
- 民間大規模開発における地域貢献交渉
- 公的プロジェクトにおける市民参加
- コミュニティ・市民主導プロジェクト

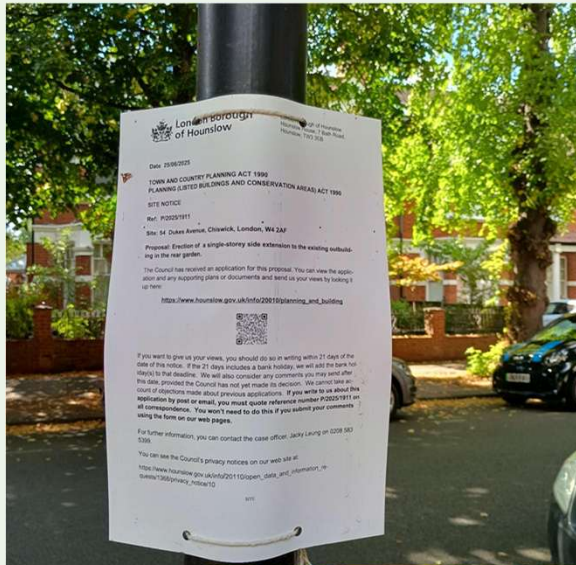
Local Plan(マスタープラン)策定



- ❑ 初期課題提示、計画案公表、最終審査の各段階で住民意見を募る義務
- ❑ 住民意見の反映と状況公開
- ❑ 住民主体で作るネイバーフッドプラン

Neighbourhood Plan

都市計画開発許可申請の流れ



- ① 開発者が建築計画を考える
↓
- ② 開発許可申請(Planning Application)
↓
- ③ 自治体がマスタープランに沿って審査
↓
- ④ 関係者や地域住民に意見を募る
↓
- ⑤ 許可・不許可の決定
↓
- ⑥ 建築・改修スタート

民間大規模開発における地域貢献交渉



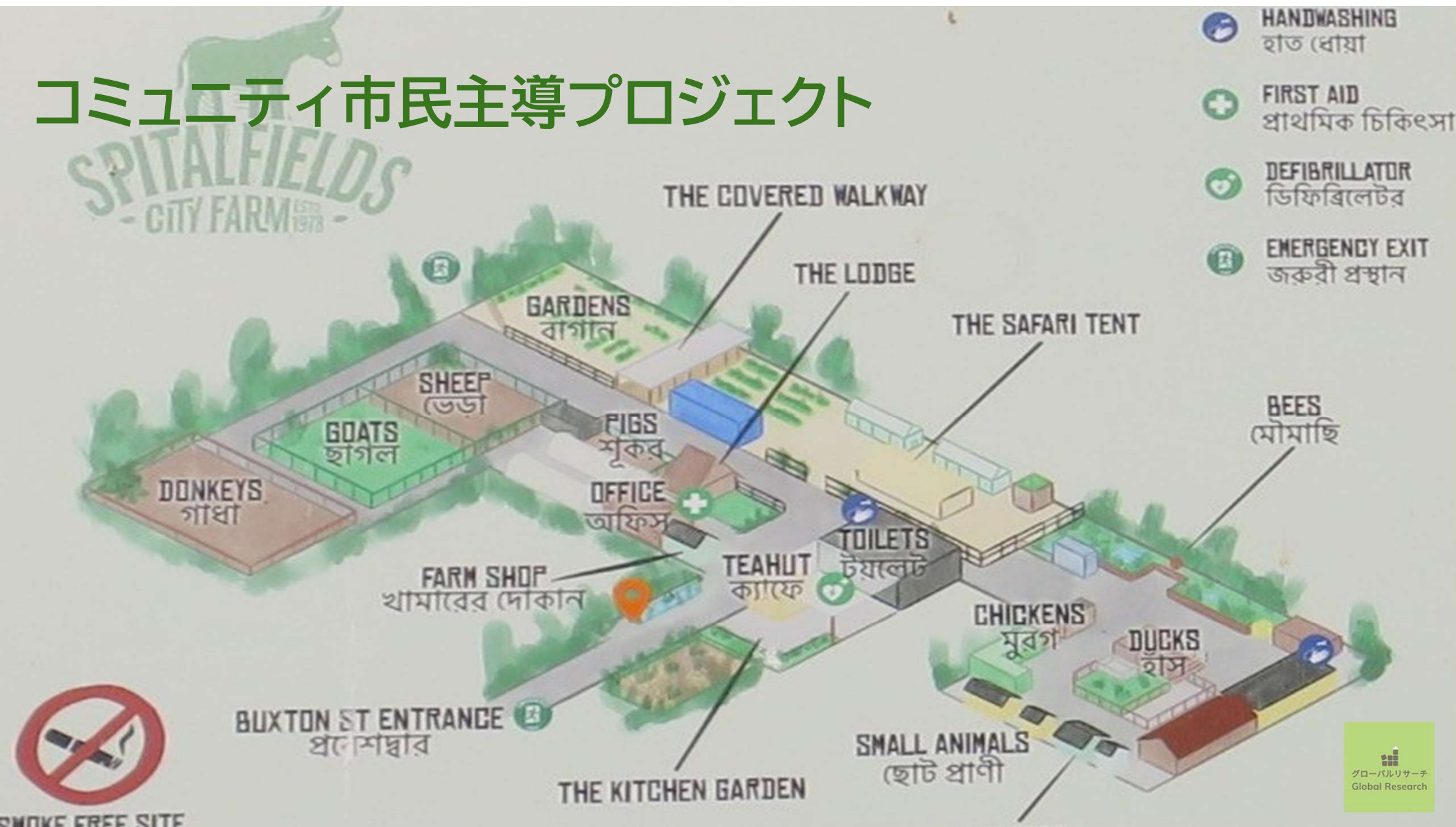
- Planning Agreement(都市計画協定)
- CIL=Community Infrastructure Levy(地域インフラ負担金)

公的プロジェクトのコンサルテーション



- ❑ 自治体など主導の公園や交通改善プロジェクト
- ❑ パブリックコメントや説明会
- ❑ ワークショップや意見交換会など双方向的手法
- ❑ 住民の声が計画に反映される

コミュニティ市民主導プロジェクト



英国の公共空間デザインにおける市民参画事例





小規模コミュニティプロジェクト事例

□ Chiswick Kitchen Garden
チズウィック・キッチンガーデン

□ Bernie Spain Gardens
バーニー・スペイン・ガーデン

□ Spitalfields City Farm
スピタルフィールズ・シティー・ファーム

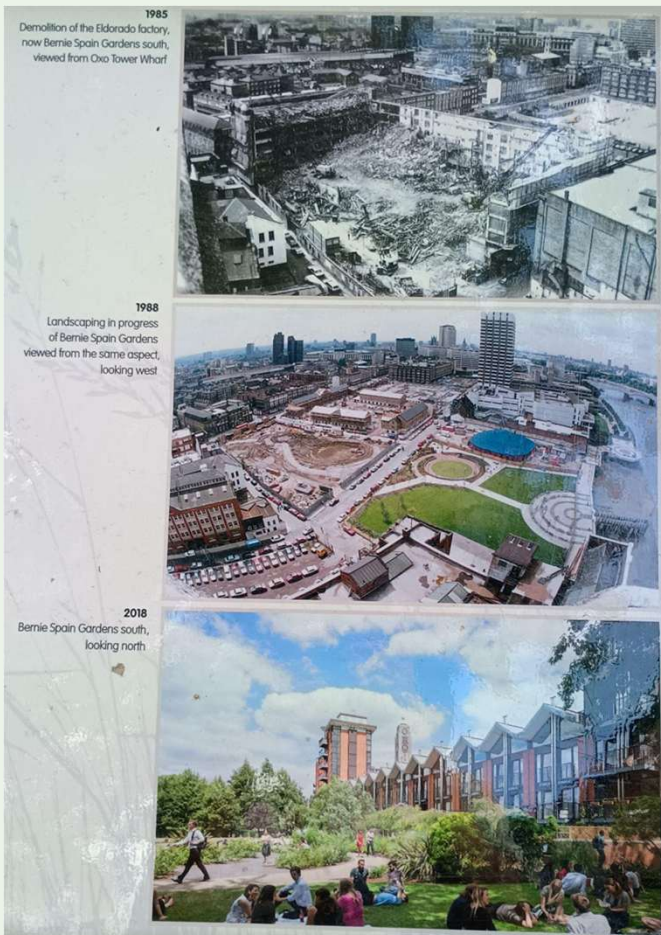
□ Vauxhall City Farm
ヴォクスホール・シティファーム

Chiswick Kitchen Garden チズウィック・キッチンガーデン



Bernie Spain Gardens

バーニー・スペイン・ガーデン



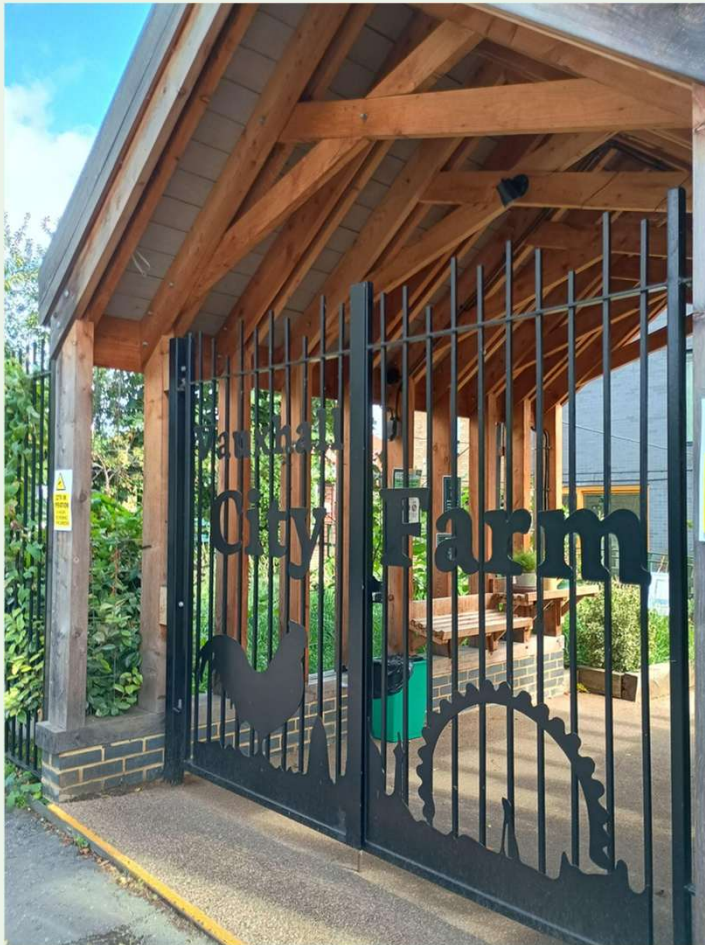
Spitalfields City Farm, London

スピタルフィールズ・シティー・ファーム



Vauxhall City Farm

ヴォクスホール・シティファーム



大規模民間開発事例: キングスクロス再開発 King's Cross Redevelopment, London



敷地面積 27万 m^2
延床面積 74万 m^2
公共空間 10.5万 m^2 = 敷地の4割



使われていなかった鉄道
倉庫を屋外公共空間とし
て修復し、開発プロジェク
トの市民ワークショップな
どを行った

キングスクロスの市民参画

- 6年にわたるコンサルテーション
- 参加者:4000人、150組織



キングスクロスの公共空間

Pancras Square パンクラス・スクエア

駅からのアプローチに緑と水の広場



Granary Square グラナリー・スクエア（噴水広場）

再開発の最初の段階で噴水を設置すると、子供連れが集まるようになった

Handyside Gardens ハンディサイド・ガーデン

地下に鉄道が通るため建築不可の空間
子どもの遊び場がある公共スペース



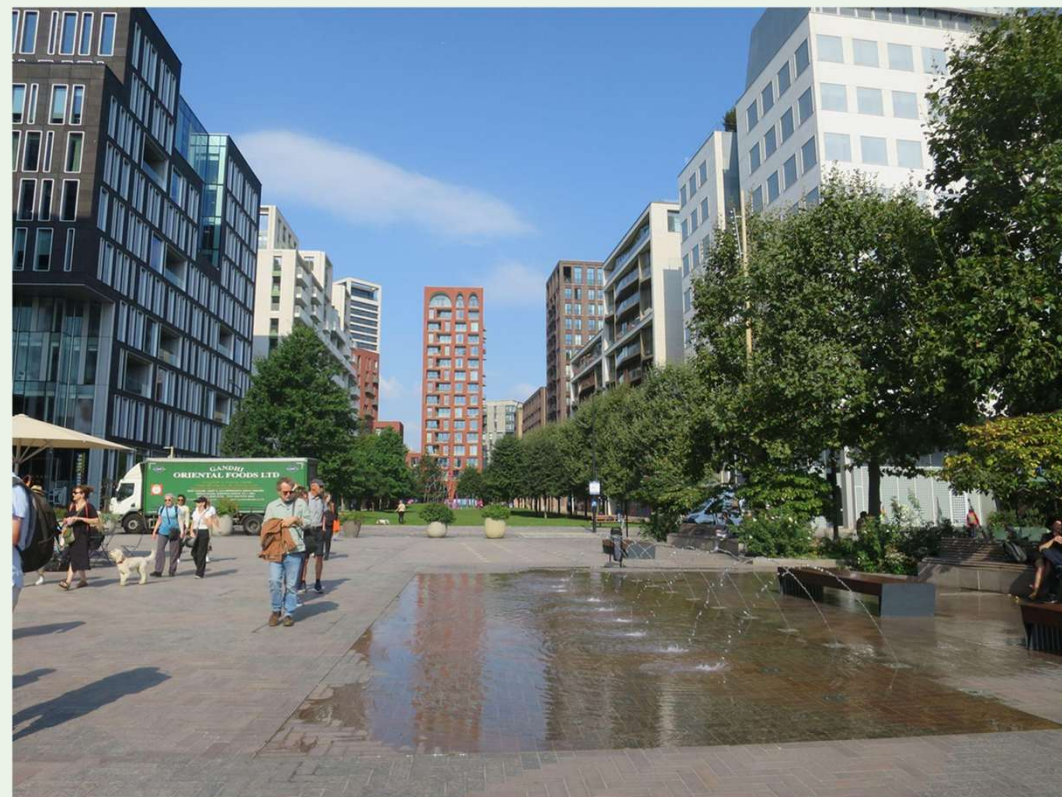
Jellicoe Gardens ジェリコ・ガーデン

アガ・カーン・センター前のペルシャ風庭園

Lewis Cubitt Park

ルイス・キュビット・パーク

大きい芝生エリア、パブリック・アート



Lewis Cubitt Square

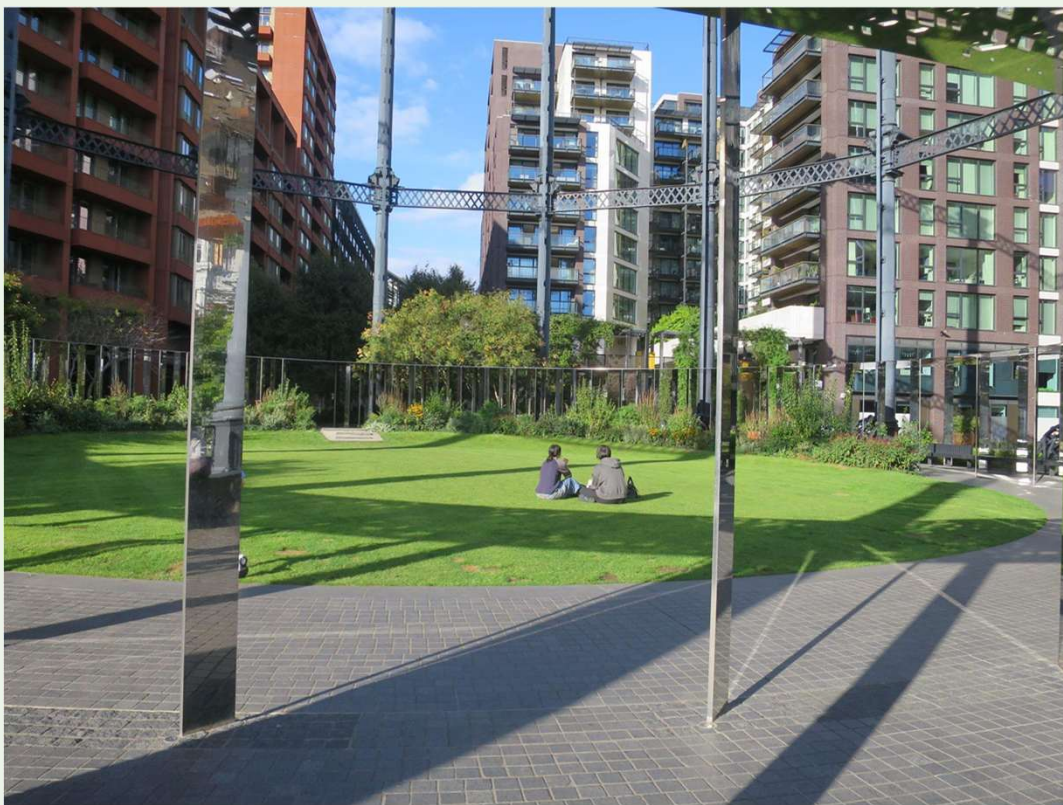
ルイス・キュビット・スクエア

噴水がある広場

Gas Holders Park

ガスホルダー・パーク

円形の芝生エリアと反射する回廊



Canal side Walk

東西に続く運河沿いの散歩道

カムデンなど隣接エリアにつながる

ロンドン・オリンピックパーク



ロンドン・オリンピックパークの市民参加



- LLDC (London Legacy Development Corporation) が大会前から計画・整備・管理を一元化
- コミュニティ・レビュー・パネル通じ、計画初期から住民の声を反映
- ワークショップや意見交換会で市民参加を制度化
- 大会後も持続し、住民の帰属感・コミュニティ意識形成

英国公共空間事例のまとめ

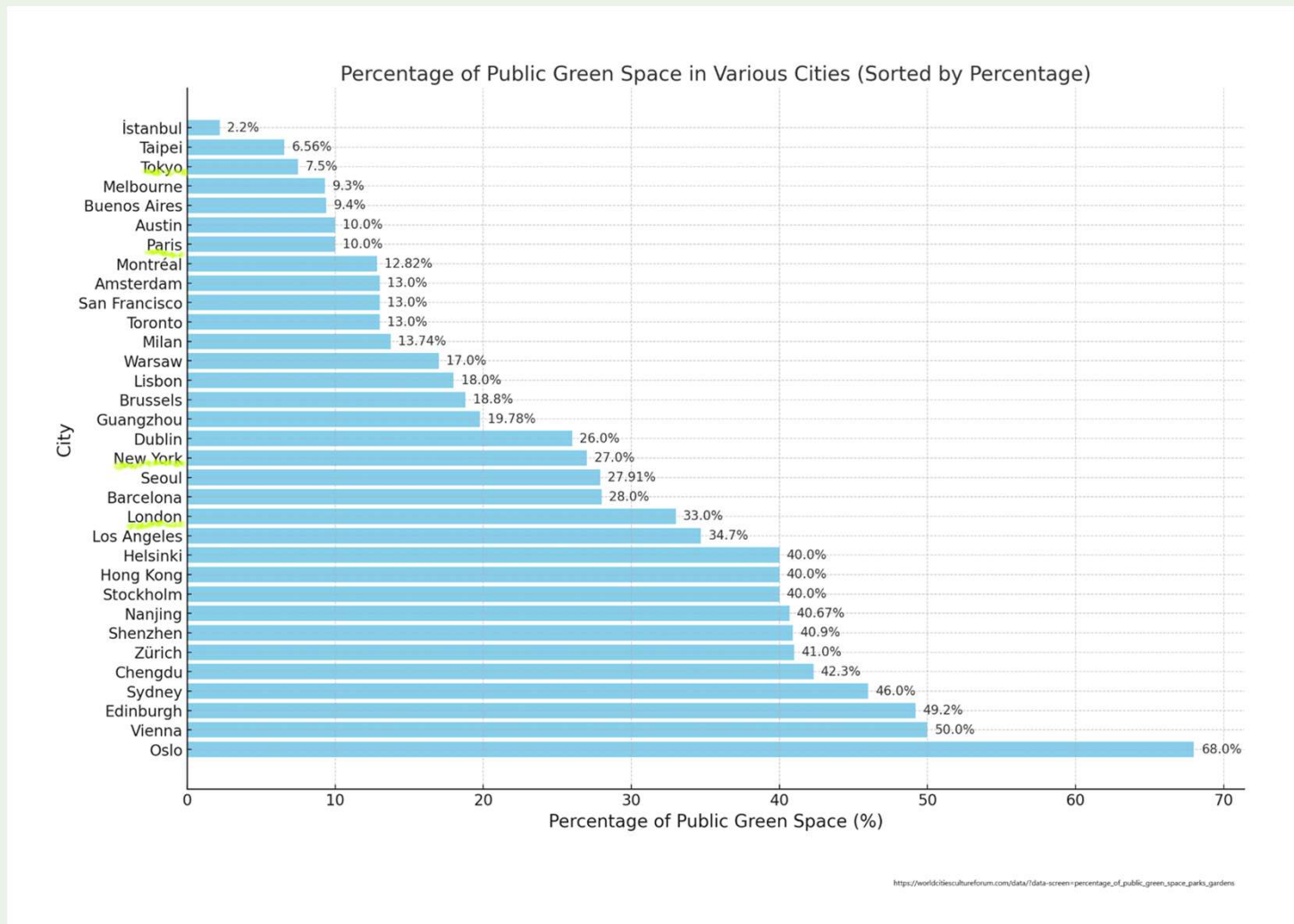


- 市民参加が不可欠
- 人中心のデザイン
- 初期段階からの参加
- 多様な主体が協働
- 持続可能な空間づくり
- 公共空間の役割

日本の公共空間



世界の都市における公共緑地の割合(%)

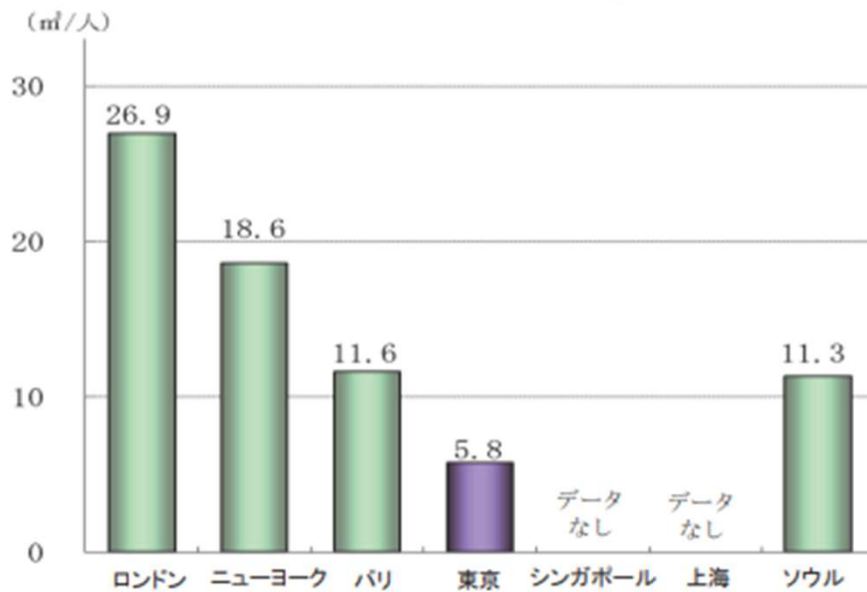


1人当たり公園面積の比較

<公園面積>

各都市と比較して少なく、都市公園の更なる整備が必要

(一人当たりの公園面積を比較)



資料:国土交通省「諸外国における公園の現況」(2012年)
東京については、東京都独自調査による

https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/honbun6_1



Hyde Park, London

英国の事例から学べる示唆



- ❑ 計画初期から市民参画を組み込む
- ❑ 多様な参加者を募る
- ❑ ルールを明確化
- ❑ 双方向・多様な参加手法導入
- ❑ 持続可能で愛される公共空間を創出

まとめ



- ❑ 公共空間は単なる場所ではない
- ❑ 人々が関わり合いながら育てていく『地域の社会資産』
- ❑ 市民・行政、多様な主体が協力し『みんなで育てる公共空間』をつくる

Global Research グローバルリサーチ

都市計画/地方創生/SDGs

代表:鍋島紀美代(なべしまきみよ)



globalpea.com



info@globalpea.com

